

Clinical features of slowly progressive type 1 (insulin-dependent) diabetes mellitus: a comparative study based on degree of obesity at diagnosis of diabetes

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-11-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 保科, 早里 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00023893

主論文の要約

Clinical features of slowly progressive type 1 (insulin-dependent) diabetes mellitus: a comparative study based on degree of obesity at diagnosis of diabetes

(緩徐進行 1 型糖尿病の臨床像：糖尿病診断時の肥満度による比較検討)

東京女子医科大学 内科学（第三）教室

（指導：内潟安子教授）

保科 早里

Diabetology International 第 6 巻 第 2 号 91～97 頁

（平成 27 年 5 月発行）に掲載

【目 的】

緩徐進行 1 型糖尿 (SPIDDM) はただちにインスリン治療は必要ないが糖尿病 (DM) 経過中に膵島関連自己抗体（抗 GAD 抗体が主）陽性が判明される 1 型糖尿病で、徐々にインスリン依存状態となりやすい。昨今の肥満の SPIDDM は肥満 2 型 DM と誤診されがちで、インスリン治療の選択がなされにくく、インスリン分泌能枯渇防止策がとられていないことが予想される。SPIDDM の適正診断のために、DM 診断以前の過去最大 BMI 時、DM 診断時、SPIDDM 診断時の 3 時点における臨床的特徴を後向きに調査し、DM 診断時を中心に検討する。

【対象および方法】

対象は 2004 年から 2010 年に血糖コントロール目的に当科に入院した SPIDDM 51 名。上記 3 時点の BMI、DM 診断から SPIDDM 診断までの期間、DM 診断からインスリン治療開始までの期間、SPIDDM 診断時の抗 GAD 抗体価と C ペプチドを診療録より抽出した。内因性インスリン分泌能は C ペプチドインデックス (CPI) ($C \text{ ペプチド} \times 100 / \text{空腹時血糖値}$) を用いた。BMI の 22 kg/m^2 未満、 $22 \sim 25 \text{ kg/m}^2$ 、 25 kg/m^2 以上をそれぞれ非肥満、標準、肥満とし、抗 GAD 抗体の $1.5 \sim 10 \text{ U/ml}$ 、 10 U/ml 以上を低抗体価、高抗体価と定義した。

【結 果】

対象者の 67%、53%、26% が 3 時点で肥満であり、DM 診断時の肥満、標準、非肥満の 3 群は、過去最大 BMI が 31.6 ± 10.9 、 25.4 ± 2.4 、 $23.4 \pm 2.1 \text{ kg/m}^2$ 、SPIDDM 診断時が 23.8 ± 4.1 、 22.8 ± 3.0 、 $19.6 \pm 2.5 \text{ kg/m}^2$ と、過去から SPIDDM 診断時まで BMI は有意差を保持した ($p=0.000$, 0.040)。DM 診断時肥満群は DM 診断からインスリン治療開始までの期間は 69 ヶ月 (以下中央値) で、DM 診断時非肥満群 (15 ヶ月) より有意に長期であった ($p=0.026$)。SPIDDM 診断時低 GAD 抗体価群は DM 診断から SPIDDM 診断までの期間 (150 ヶ月) もインスリン治療開始から SPIDDM 診断までの期間 (75 ヶ月) も、高抗体価群より有意に長期であった ($p=0.035$, $p=0.032$)。SPIDDM 診断時 CPI は DM 診断時肥満群、非肥満群全員 1.0 以下であった。

【考 察】

DM 診断時肥満群はそれ以前から肥満のことが多く、SPIDDM 診断時でも非肥満の傾向であることが今回明らかになり、インスリン治療開始までの期間が予想通り有意に長く、肥満 2 型糖尿病と診断されてしまってインスリン治療導入が遅くなった可能性が考えられる。一般に肥満 2 型糖尿病において CPI 1.4 以上が経口血糖降下薬で治療可能な値であるが、SPIDDM 診断時には肥満も非肥満も $\text{CPI} \leq 1.0$ と低下していた。 $\text{CPI} \leq 1.0$ が SPIDDM を積極的に疑う指標になると考えられる。

【結 論】

過去の肥満歴や DM 診断時の肥満に関係なく、糖尿病診断時に $\text{CPI} \leq 1.0$ の場合は SPIDDM を積極的に疑い、精査を行う必要がある。